

科学技術の智プロジェクト NEXT ワークショップ（第4回）

科学技術の智術の智ラボトリ ネットワーキングセッション

実施報告書

科学コミュニケーション研究所



2020年3月



概要

日時 2020年2月29日 土曜日 15時～18時

場所 tokila room (トキラルーム) (千代田区神田錦町3-22-8小笠原ビル
3F)

目的 科学リテラシー、科学コミュニケーション、科学技術政策など、科学と社会をめぐるさまざまな活動をされている方、それに関心がある方の情報共有とネットワークづくり

対象者 科学リテラシー、科学コミュニケーション、科学技術政策など、科学と社会に関する活動をされている方、それに関心がある方など

参加者 17人

- 研究者（科学教育） 2名
- 研究者（コミュニケーション） 1名
- 研究者（物理学） 2名
- コンサルタント 1名
- Webデザイナー 1名
- 理科ボランティア 1名
- 大学生 2名
- 科学技術の智ラボラトリ 5名
- さくり 2名

話題的提供

- ・ 科学技術の智プロジェクトNEXTの活動 大橋理枝
- ・ Life is small. Projects 永山國昭
- ・ 風景をつくるごはん 中山 迅
- ・ 途上国カンボジアの生物授業におけるモバイル顕微鏡活用の試み 都築 功
- ・ モバイル顕微鏡を使った衛生教育 大野真梨子
- ・ 微生物キャラ+モバイル顕微鏡@Tsukuba Mini Maker Faire 望月銀子
- ・ 大学、大学院での講義、演習、実験を、インクルーシブなクラスで行うための教材づくり 釜江常好
- ・ モンゴルの地域防災における「つくるコミュニケーション」 奈良由美子
- ・ 科学コミュニケーションについて語ること、語り合うこと 工藤 充
- ・ 菊地浩平
- ・ 一般社団法人科学・政策と社会研究室（カセイケン） 榎木英介（ビデオ参加）
- ・ 日本版AAASについて 榎木英介（ビデオ参加）
- ・ 大学教育の分野別質保証 北原和夫



大橋







都築 功
ISAO TSUZUKI



rights reserved.











参加者の感想 1（研究者）

土曜日はありがとうございました。

途中での退席となってしまいましたが、充実した時間を過ごすことができました。

・・・話題提供については、私は早い時間帯をいただき、いくつかの有益なコメントを得ることができました。永山先生のスマホ顕微鏡についても、JASCの年会の時からさらに進んだ情報がありました。

しかし、その後の一つ一つの話題にかける時間が長かったので、予定されていた話題を最後まで共有できたのかどうか心配になりました。気がかりはそれだけです。

ともかく、ありがとうございました。

参加者の感想 2（大学生）

先日の科学コミュニケーションイベントではありがとうございました。見聞を広めるいい機会でした。

参加してみての感想及び質問ですが、2つほどありました。

まず学生としての立場で参加できたことは、自身の将来を考えるうえで参考になりました。私は将来、数学を子供だけではなく、幅広く一般の人たちに広めていきたいと思っていました。特に小中高で学習するような限定的かつ受験や定期テスト等の分類の数学ではなく、もう少し学問に目を向けた活動をできればと考えておりました。そんな中、今回のイベントでは分野は違えど、日本あるいは世界に向けて活動をされている方々がいらっしゃり刺激のあるイベントとなりました。

さらに科学を広めるような活動を先頭になって進めている方々に混ざって聞くことができ、とても光栄に思いました。

次に質問として1つだけあります。

大橋様がお話しなさっていた『科学技術の智プロジェクトNEXTの活動』の中で、学問分野が列挙されたスライドを目にしたのですが、あれはどのような内容だったのか今一度詳しく聞きたいと思っていました。当日は尋ねるタイミングがなく申し訳ありませんでした。また”数理科学”や”計算科学、”物理学・天文学”といった分野がありましたが、”純粋数学”といった分野は無いのでしょうか？

ご質問に答えていただければ幸いです。

私の感想は報告書に掲載されてもかまいません。よろしく申し上げます。

参加者の感想3（科学ボランティア）

科学コミュニケーションということに関して、実際に携わっている方々がどのような思いを持って活動されているのか以前より興味を持っておりました。

横浜及びその近郊にて子供たちを対象に科学塾や出前の授業などを行うボランティアの団体に所属し私自身もいくつかのテーマを持たせていただいています。そして、伝えるということはとても難しいといつも感じます。私などは、ただのおばちゃん、教員でも研究者でもない、余計に会員からのチェックが厳しいと感じます。会の中では発言権もないのですが、会員の高齢化と、参加者の減少という問題に何か打開策がないかと微力ながら考えています。ただ子どもが喜ばばよいのか？対象者を低年齢化することで参加者が増えさえすればよいのか？本当に理科離れするのは高学年という問題にたいしては？私でもできることはあるのだろうか？など問題は山積と思います。参加者の皆さんがいろいろと模索しながらも自信を持って活動されていることに、敬意を払いたいと感じています。普段接することができない素晴らしい方のお話を聞き、視野を少し広げることができましたし元気をいただきました。

まだまだ、この活動が広く知られていないのではないかなとも感じて、もっとたくさんの方に聞いていただけるとよいのになと感じました。自粛ムードの中では難しかったのかもしれませんが。どうもありがとうございました。

- ・当日の発表内容に対するご質問など、

以前よりモバイル顕微鏡を使った体験に興味を持っておりました。

理工系の会員が多いせいか、会に投げかけても普通の顕微鏡や従来のルーペなどの使い方を子どもに伝えるほうが有意義と相手にしてはもらっていません。小さく持ち運びが楽であり、観察したものをスマホの写真に保存できるので、今の子ども達には良い体験ができると思っています。発展途上国で、学生さんや現場の教師の方々に体験してもらっているの、良いお話でした。今回実際に開発者の永山先生とお会いできて、協力していただける旨のお話をいただきうれしく思っています。

会にはこの旨伝えたのですが、なしのつぶてで、残念です。粘り強く働きかけていきたいと思っていますので、永山先生によろしくお伝えください。

食育についての活動、永谷中学の生徒さんでも実施されたとのことでしたが、このような内容、都会の子どもには地域の農や食を大事にするというような感覚が少ないので、良いなと思います。たぶん農協さんがやっていると思うのですが、あまりかかわることが少ないと思います。ご指導いただけたらと思います。

- ・今後に関するご希望

またこのような機会がありましたら参加させていただきたいと思います。

参加者の感想 4（研究者）

白根さんからカンボジアでのモバイル顕微鏡を使った授業の報告のお誘いを受け、初めて参加&発表させていただきました。

参加するまで正直言ってどのような会かきちんと把握しておらず、中山先生や北原先生とお会いして驚いたというような状態でした。

大橋さんの、“NEXT”に至るまでのあゆみを聞かせていただき、アメリカのProject2061を土台として綿々と続けてこられたのに感動いたしました。

これまで生物教育学会の渉外担当として、いくつかの学際的な会にかかわってきましたが、なぜ今まで存じ上げずにいたのだろうと恥ずかしく思った次第です。

私のカンボジアでの活動も、日本での理数系学会教育問題連絡会や教科理科関連学会協議会も、最近仲間に入れていただいたLife is small projectも、全て自分の中ではサイエンスコミュニケーションとしてつながっています。

こじんまりしていますが、自由で密接な議論ができるこの会との出会いがこれから自分の中で新たに根を張り、様々な活動と化学反応を起こして新しいアイデアや活動が生まれることを期待しております。

よろしく願いいたします。

添付資料

2020年2月29日（土） 15：00～18：00

@tokila room

科学技術の智プロジェクト NEXT ワークショップ（第4回）

科学技術の智ラボトリ ネットワークングセッション

主催 科学技術の智プロジェクト NEXT

facilitated by



はじめに
(10min)

関心・実践の共有
(100min)

意見交換
(50min)

終わりに
(5min)

ファシリテーター

放送大学

大橋 理枝（おおはし りえ）

科学コミュニケーション研究所

田原 敬一郎（たはら けいいちろう）

ワークショップの目的

はじめに
(10min)

関心・実践の共有
(100min)

意見交換
(50min)

終わりに
(5min)

科学リテラシー、科学コミュニケーション、
科学技術政策など、科学と社会をめぐる
さまざまな活動をされている方、それに関心
がある方の**情報共有**と**ネットワークづくり**

本日のプログラム

1 はじめに(10min)

本日の目的や進め方を確認します。

2 話題提供(100min)

各自が行っている取り組みや関心を話します。

3 意見交換(50min)

話題提供をふまえ、全体で対話します。

4 終わりに(5min)

一日をふりかえり、主催者からご挨拶を。

はじめに
(10min)

関心・実践の共有
(100min)

意見交換
(50min)

終わりに
(5min)

対話のルール

- 一人ひとりの**考え、想い**を大切にする。
- おたがいの違いや多様性から**学び合う**。
- **全員が話せる**チャンスをつくる。
- いつも考えていることを発表するより、**その場で**感じたこと、**話し合いの中で**生まれたアイデアを大切にする。
- **フラットな関係で**話し合うために、おたがいを「さん」づけで呼ぶ。

はじめに
(10min)

関心・実践の共有
(100min)

意見交換
(50min)

終わりに
(5min)

2 関心・実践の共有

各自が行っている取り組みや関心を共有します。

はじめに
(10min)

関心・実践の共有
(100min)

意見交換
(50min)

終わりに
(5min)

希望者の方に、

- ・ 科学と社会に関連して取り組んでいること、
関心があること

を話題提供してもらいます。

持ち時間は一人5分程度です。

3 意見交換

ラボラトリと一緒にやりたいことや
期待することについて、全体で対話します。

話題提供を踏まえ、ファシリテーターの進行の下、
全体で対話を深めます。

- ・ ラボラトリと一緒にやりたいこと
- ・ ラボラトリに期待すること

はじめに
(10min)

関心・実践の共有
(100min)

意見交換
(50min)

終わりに
(5min)

4 終わりに

はじめに
(10min)

関心・実践の共有
(100min)

意見交換
(50min)

終わりに
(5min)

主催者を代表して挨拶します。

ご参加ありがとうございました。

科学技術の智ラボトリ

で、お会いいたしましょう。

科学技術の智プロジェクトNEXT

facilitated by

